各種委員会の取り組み

第1種委員会／第2種委員会
第3種委員会／第4種委員会
女子委員会／フットサル委員会
審判委員会／医学委員会

公益財団法人北海道サッカー協会

【第1種委員会】

1 種委員会の現状と取り組みについて

第1種委員会　委員長　髙木　真一

第1種委員会は社会人・大学・高専・専門学校・自治体・自衛隊各関係連盟及び関連委員会のご協力の元、2022年度の各種事業を終了することが出来ました。

第1種所属各連盟主催の全道大会は、道内各連盟・協会関係者のご尽力と参加選手、チームスタッフの熱意により、コロナ禍におきましても感染対策を講じながら、どの大会も活気のある有意義な大会となっておりました。全国大会においては、全国社会人サッカー選手権大会で BTOP サンク栗山（2023 年度は BTOP 北海道に改名）が準優勝、総理大臣杯では北海道教育大学岩見沢校サッカー部がベスト8の成績を収めております。

また、第1種内の各種別においても、全国の強豪との対戦を経験すること競技レベルの向上が認められており、2023 年度は全国上位の成績を収めることを期待しています。

登録チーム数及び全道大会参加チーム数の減少等、第1種を取り巻く環境は厳しさが続いておりますが、2023年度においても所属各連盟で問題点を共有しながら、サッカーを楽しみ続けることを忘れずに競技力及び大会運営能力の向上に向けて努力していきたいと思っております。

【第2種委員会】

新たなるステージへ

第2種委員会　委員長　勘七　誠

今年、北海道ではプレミアリーグとインターハイが同時に開催されます。北海道で2種年代に携わるものとしてこの上ない喜びであり、全国レベルの試合を間近で感じることができる素晴らしい機会でもあります。このタイミングを北海道サッカーがステップアップするビッグチャンスと捉え、プリンスリーグの下部リーグにあたる北海道 FA リーグ（プリンス2部）立ち上げに動いたり、全国高校選手権の北海道予選決勝をあこがれの舞台でもある札幌ドームで開催する等様々な改革を行っています。『不易流行』の言葉を胸にこの目まぐるしく変化する時代の流れを敏感にキャッチし、失敗を恐れることなく何事にも積極的に挑み続けていきたいと考えております。一方で地方のチームが減少している等、問題は山積みです。一つひとつ真実から目を背けることなく、真摯に対応していく中で選手たちが少しでもサッカーを人生の一部にしてくれるような環境を整備してまいります。2種としてこれからも多くのサッカーファミリーを増やしていけるよう取り組んでまいります。また、北海道サッカー協会の一員として他種別とも協力しながら北海道サッカーの発展に少しでも寄与できるよう努力し続けてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

【第3種委員会】

サッカーをしたいすべての中学生のために

第3種委員会　委員長　大石橋　計幸

部活動を学校単位ではなく地域の力で支える時代へ、と大きく報道されてから 1 年余。

昨年度、第 3 種委員、15 地区協会第 3 種委員長、さらには中体連地区専門委員長の皆さまとオンライン会議を重ね、現状把握と課題の洗い出し、その課題へのアプローチの方法を整理いたしました。皆さまと、サッカーをしたいすべての中学生に何としてもその環境を、という熱い思いを共有できましたこと、大変心強く感じております。

地域移行の前段階として、合同チーム編成条件の緩和や拠点校方式の整備が進んでおりますが、今年度数チームの「地域クラブ」が誕生していますので先行例として学ばせていただきたく存じます。課題は山積ですが、クラブユース連盟加盟クラブ、地域クラブ、中学校サッカー部が共存共栄できる環境を目指してまいります。

【第4種委員会】

アフターコロナの中で今、求められること

第4種委員会　委員長　佐賀　主昌

新型コロナウイルス感染症の扱いが 5 類感染症扱いに移行されました。行動制限が求められることがなくなり、子どもたちも思い切りサッカーが楽しめる世の中になったことを大変うれしく思います。この 3 年間、大会運営は、感染症対策との戦いでもありました。しかし、見方を変えるとこの 3 年間で、これまでの取組が本当に子どもたちや関係者のために良いものであったのかを、見直すことができた時間でもあったと思います。昨今、社会では、「持続可能」「働き方改革」という言葉が繰り返し使われています。時代に合わせてサッカー界においても、この言葉を意識していくことは大切だと考えます。例えば、一部の方々に負担をかけるのではなく、負担は関係者全てが分担をすること（働き方改革的視点）が、今後の大会の持続につながり、子どもたちの活躍の場を保証し続けることになるのではないでしょうか。合わせて、この 3 年間で生まれた関係者のみなさんの知恵と工夫をアフターコロナの中でも反映させながら、子どもたちが伸び伸びとサッカーを楽しめる環境づくりの推進に向けてのご協力をお願いいたします。

【女子委員会】

北海道の女子サッカー環境の変化

女子委員会　委員長　中川　綾子

2022年度はU-18女子サッカーリーグプレ大会が実施され、地域のトップリーグである北海道女子サッカーリーグ、JFAU-15女子サッカーリーグ、U-18女子サッカーリーグと3つのリーグが揃うことになりました。

また新型コロナウイルス感染症の影響で延期になっていた「道新カップ第1回北海道女子8人制サッカー大会」を2022年度には実施することができました。普及の大会である「北海道女子8人制リーグフェスティバル　北海道レディースエイトリーグ」は参加チームが増加傾向にあります。

女子は選手数こそ少ないですが年代が広いため、多くの方々のご協力をいただきながら各種大会を実施しています。

男女問わずサッカーを楽しみたいと思った人が、プレーできる環境づくりに少しでも貢献できたらと思って取り組んでいます。

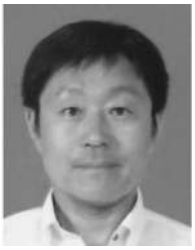
【フットサル委員会】

フットサルの普及とサッカーとの融合

フットサル委員会　委員長　野呂　雅友

委員会の活動内容は、大きく次の4つを行なっています。①JFAに繋がる各種別の全国大会の企画運営、②各地区FAと各地区フットサル連盟と協力して各ブロックリーグや各地区予選大会の企画運営、③フットサル競技の普及活動（選手・指導者）、④各種別との連携活動、になります。今後は、雪が降っても1年を通じて少人数でも小スペースでも楽しめるフットサルを4種から2種の育成年代、女子やシニアにも広く楽しんで参加してもらえるように新しいニーズに合ったフットサル競技の企画運営を行なっていきます。また、同じファミリーとしてサッカーと色々な面で共存共栄していくことが、北海道のサッカーとフットサルのお互いの発展に繋がると考えます。選手も審判も指導者も役員もフットボールを通じてお互いに知り合い、仲間となって、より良い環境で楽しんで頂きたいと考えます。

【審判委員会】



審判員の普及・育成に向けた取組み

審判委員会　委員長　藤井　陽一

昨年、審判委員長に選任いただきました。私は現在も１級審判員として活動させていただいており、諸先輩、地区協会の皆様のおかげと感謝しています。今後は審判員を支える側として尽力していきたいと考えております。

JFA 審判委員会では『全てのサッカーファミリーが「フェアで、安心・安全な試合」を楽しめるように審判員の育成と競技規則とその精神の理解・浸透を行う。』というミッションを掲げ、取組みを進めています。私たちもその方針を基に、地域事情を考えながら、審判員の普及・育成に努めております。近年、審判員数が減少し、特に 4 級・ユース審判員が顕著に現れています。審判員がやりがいを持って活動していただける環境整備に向けて、取り組んでいきますので、北海道のサッカー、フットサルの発展のため、今後も審判委員会へのご理解とご協力をお願いします。

【医学委員会】

北海道における医学委員会の活動

医学委員会　委員長　神谷　智昭

医学委員会ではこれまで、トレセン活動におけるメディカルサポートと傷害発生予防に向けた啓発活動を行ってきました。ＪＦＡ医学委員会と連携しつつ、北海道から国内外に発信する調査・研究を実施しています。その実績が認められ、ＪＦＡの代表活動に北海道内のメディカルスタッフが帯同するようになりました。

一方で選手・指導者・審判・観客の命を守ることも我々の重要な任務です。北海道でもＪＦＡスポーツ救命ライセンス講習会を開催し、安心・安全なサッカー環境作りを心がけています。本講習会はメディカルスタッフだけではなく、サッカーに関わる全ての人に受講してもらいたい内容となっています。今後も継続開催しますので、ぜひご参加をお願いします。

その他もアンチドーピング活動、栄養指導など、多くの専門家が医学委員会で活躍しています。引き続き世界基準を意識して、活動を行っていきたいと考えています。